

「創立125周年に向けて」

第
1
回

大学の「現状」と「期待」について

『南甲倶楽部』

会員に聞く

英吉利法律学校として1885年に産声を上げた中央大学は、2010年に創立125周年を迎える。『実学』を建学の精神に伝統を培い、私学の雄として揺るぎない基盤に立つ本学は、新たな時代に入る。そこでシリーズ『創立125周年に向けて』の第1回として、実業界で活躍する卒業生に、中央大学の「現状」と今後への「期待」について、うかがった。

新年賀詞交歓会
中央大学南甲倶楽部

学生記者取材班

経済界の最前線で活躍する中央大学の卒業生で組織する『南甲倶楽部』（会長・足立直樹凸版印刷社長）の新年賀詞交歓会が1月30日、都内のホテルで開かれた。

この日は、久野修慈理事長、永井和之総長・学長ら大学関係者をはじめ、学員会会員、南甲倶楽部会員ら220余名が集い、新年を祝った。

学生記者は、講演会後に開かれた懇親会の会場内をめぐり、中央大学の①現状②今後への期待―の2点について、忌憚のない意見を聞かせていただいた。

■真面目・地味・おとなしい■

井上 玲子さん やよい共同法律事務所 所長（昭和54年卒）

①法科大学院だけでなく、ビジネスの面でも専門職大学院ができて、中央大学は発展していつている。ただ、大学のイメージは少し古く、固い。

②古く、固いイメージを交換して、価値観にとらわれず、柔軟な考えを持ち、日本を改革してくれるよ

うな人材を輩出してほしい。

岡田 章さん

DEAR CULTURE 代表(昭和40年卒)

①最近、マスクミに出る先生が多くなっているのは評価できる。しかし、「真面目で、おとなしくて、地味」という中大のイメージは変えていくべきでしょう。それと、これは日本の大学全体に言えることだが、文理の区別は良くないと思う。もっとフレキシブルにしていくことで、新たな可能性も生ま

れてくるのではないかと。

②日本人は日本の良いところをもっと知るべきで、学生は自主的に海外に出掛けて行って、日本を振り返ることが必要だ。そのために中大はどういう人材を育てていくかを考えるべきだと思う。日本の文化を発信する人を中大から社会に出していかないといけない。

■学生は個性を発揮して■

武内 邦夫さん 清水建

設(株)営業本部副本部長(昭和49年卒)

①リクルーターをしており、学生を見る機会が多いが、中大生はきれいにまとまっている学生が多い。もっと思い切ったことをやって個性を出してほしい。学生時代はいろいろな人に会って、人脈を広げてほしいと思う。

②学生よりももっと親たちに中大のアピールをしてほしい。全日本大学選手

権でのサッカー部の優勝をもっと活かして、外にアピールするべきだ。
大竹 健嗣さん ヴィクトワール法律事務所 所長(昭和39年卒)
①これはというものを持ち、学部勉強に励んでほしい。そこで実力をつけて、力のある人材に育つように努力する。しかし、自分の利益だけを追求するようでは駄目、家族のため社会のためではなくて、世の中のために貢献してほしい。
足立 直樹さん
凸版印刷(株)社長(昭和37年卒)
①学生に覇気がない。どこか沈んでいる。おとなしい。リーダーシップをとれない学生が多い。もっと積極的に頑張ってほしい。
②中央大学は法曹界のイメージがあるが、ビジネススクールの開設をきっかけに新たなブランド力をつけたい。

山田 巨良さん

テレビ朝日 元専務(昭和35年卒)
①「質実剛健」すぎる部分がある。

就職活動の際に面接官として中大生を見てきたが、固くて、自己PRをうまくできない学生が多い。
②法曹界、会計士の分野では一流ではあるが、今後は実業の世界でその力を発揮してもらいたい。

平山 誠一さん

緑産業(株) 社長(昭和35年卒)

①勉強に対して中途半端な気がする。
②まわりを見渡せる人間になってほしい。思いやりのある学生になってほしい。

■「中大卒」となぜ言わない■

鈴木 和彦さん 大日本印刷(株)

商印事業部(平成3年卒)

①民間企業には必ず中大の卒業生がいる。しかし、早稲田、慶応みたいに自分からは「中大卒」と決して言わない。どうして言わないのか。

②昭和53年(1978年)以前の卒業生は駿河台キャンパス、その後卒業生は多摩キャンパス。卒業



拍手で新年を祝う



全員で校歌を斉唱

しかし、早稲田、慶応と比べてパフォーマンスが足りず地味だ。輝くパフォーマンスを持つて欲しい。早稲田、慶応は1

人が有名になると、その人をみんなで持ち上げようとするが、中央にはそれが無い。大学も学生も、みんなで力を合わせる気持ちに欠けている。

②中央大学に関わる全ての人が全力投球をしてほしい。今年の箱根駅伝ではシード権を守り、サッカーでは見事、大学選手権で優勝した。これはすばらしいことだ。もつと中大のOB・OGが協力し合い、後輩を育てていくことが大事だ。

■卒業生と学生が一体に■

鶴沢 保雄さん 鶴沢労務管理事務所 所長 (昭和31年卒)

①いまの中大は学生と卒業生との距離が遠いように感じる。都心から

離れた立地も学生と先輩との距離を遠くしていると思う。

②中大は都心に戻るべきだ。そして、学生・卒業生間のタテとヨコをつなぐ仕組みづくりが必要で、いまネットを使ってそれを実現しようという試みを計画している。それによって、就職や転職などの際にも後輩をサポートしていけるようにしたいと思っている。

藤森 宏一さん 南甲倶楽部専務理事 (昭和39年卒)

①社会に出て52歳になるまで母校に對して全く没交渉であった。そう思った中大卒業生は案外多いと思う。しかし、自分が卒業した大学が、社会において少しでも「いい大学だ」「入学したい大学」と評働されることを望むOB・OGへの働きかけが少なかつた。

②卒業した大学は代えられない。それならば卒業生に歴史と伝統がある中央大学に少しでも興味を持つて、母校のために協力してもらおう働きかけが欲しい。

山崎 哲史さん プルデンシャル

生命保険㈱ ライフプランナー (平成11年卒)

①中央大学には、「熱き心」というものがあるのだろうか？伝統文化を重視しすぎていて、考え方が固い。このままでは変わっていかないと思う。だからこそ、30代のOB・OGの僕らが中央大学を変えていくべきだと思う。

②不景気な世の中だけけど、学生ほどのように生きたいか、どういう人を目指したいかを考えて、先を見越して行動してほしい。中央大学のOB・OGは後輩を可愛がってくれるから、どんどん自分からアピールしていくべきだ。

■積極的に情報発信を■

成田 清治さん

大同興業㈱ 人事部長 (昭和49年卒)

①中央大学のスローガンである『実学ルネサンス』が学外に浸透していない。もつと学外、社会に向かって発信した方がいい。発信力が足りない。

②社会のニーズを分析して、大学が

生のなかで母校に対する思いに温度差が生まれてしまっている。年代間の交流を深め、温度差をなくしていったほしい。

小山 善次郎さん

㈱三和産業代表取締役 (昭和28年卒)

①中大は伝統を守っているし、まじめで実直な学生が多い。社会に出てもその姿勢は変わっていない。

変わっていったほうがいい。そうすれば魅力ある大学になる。これから、あらゆる面で何をしていくか、戦略を立てていかなければならない。そのうえに立って社会に貢献できる人を育てていくことが重要だ。

川島 正博さん

両総観光(株) 社長(昭和55年卒)

①自分が中大の卒業生でなかったら、子供には中大は勧めないだろう。中大は何をやっているのか、分らない。昔は「質実剛健」と言っていたが、今は特徴がない。何かやっているのかもしれないけど、それが伝わってこない。だから、何をやりたいのかも分からない。②いろいろな分野で活躍する人材を輩出してほしい。

星 禮二さん

(株)ワカホ 社長(昭和35年卒)

①「質実剛健」だけではなく、世間にもっとアピールする必要がある。アピールも手下だし、今の中大はあまりに地味すぎる。学生とOBとの関係が希薄だ。正直、他大学

がうらやましいと思う時がある。

②積極的に情報を発信して、ブランド力を高めていってほしい。もっとOBと学生が交流する機会をつくってほしい。

青山 公彦さん (株)朝日工業社

北関東支店 課長(昭和63年卒)

①中大は、アピール力で他大学に負けている。早稲田、慶応、明治の名前はやっぱり強いと思う。それに負けないようにもっとアピールしていってほしい。最近はずっと活躍している中大の名前を聞くとき、OBとしても嬉しい。

②最近の中大はスポーツが盛り上がっている。マイナーなスポーツも中大は力をいれているので、活躍したら大きく取り上げてほしい。そして、中大をアピールしてほしい。中大生は元気があるから、もっと有名になれるはず。頑張ってほしい。

■多摩に根を据えて

河野 信之さん (株)三宝ゴルフ代

表取締役(昭和56年卒)

①中大は、ビジネスの世界に精通した鈴木敏文前理事長のころから運営の仕方が変わってきたと思う。6万5千人ほどだった受験生が、8万5千人ほどに増えていると聞く。良い方向に変わってきているのではないか。

②キャンパスを都心に戻すべきだという意見もあるが、私は多摩に根を据えて、発展すべきだと考える。キャンパスを都心に戻すというのは現実的に考えて難しい。キャンパスを都心に戻すかどうか議論するのではなく、多摩に根を据えて、どのように発展していくかを考えていくべきだ。

山下 孟男さん

(株)ウイルコム 監査役(昭和43年卒)

①司法試験や公認会計士試験などの資格試験は頑張っていると思う。でも、多摩にキャンパスがあるためか、あまりいいイメージを持たない。駿河台時代は、「質実剛健」で夜



多数のOBらが集った賀詞交歓会

間部もあり、学問に対して今よりも一生懸命だったと思う。②常に向学心をもって頑張ってほしい。

原 健作さん

JFE工建 社友(昭和43年卒)

①理事長が久野修慈さんになって、前に比べて大学が元気になったと思う。このままの勢いで、元気をどんどん盛り返してほしい。司法試験の合格者が増えたり、OB・

OGの協力によりスポーツが飛躍したりしているので、学生も卒業生も積極的に頑張ってもらいたい。②創立125周年の記念事業を機に、大学改革を進めてもらいたい。そして、私学で日本一の大学になつてほしい。

■ 伝統を守り、発展を ■

鹿野則彦さん (株) 太平エンジン
アリング顧問 (昭和37年卒)

①他の大学と比較して、司法試験の合格率が高いのはすばらしいと思う。

②今後もこの調子でますますの発展を期待したい。

平賀 新太郎さん (株) ハウスホールド横濱 代表取締役 (昭和53年卒)

①司法試験の合格実績はすばらしい。ただ、学生の体力を向上させる仕組みがないのが問題だ。ビジネスはアナログなものなので、仕事をしていく上で体力は非常に大事だ。②サッカー部が大学選手権で優勝したが、その他の体育会にも頑張つてほしい。体育会の学生だけでなく、

一般の学生の体力も向上させていくべきでしょう。また、OBは学生が勉強したことを実践に生かすための橋渡しをしていくことが大事。中大OBにはビジネスに精通した人が多くいるので、そういった先輩の力を借りるべきでしょう。

高村 正彦さん

衆議院議員 (昭和40年卒)

①現状については、とくにない。

②中大なりの伝統を守ってほしい。そのために「伝統を守るための改革」をしていく必要がある。

「法科の中央」と言われたように、中央大学は法曹界において大きな歴史と伝統を誇っている。司法試験や公認会計士試験、公務員試験など資格試験を目指す学生を応援する大学の方針に対し、「中大は資格試験の予備校なのか」と批判する意見があるが、そうだろうか。大学は真面目に頑張る中大生の良いところをもっと応援するべきだ。

■ 戦略を立てて改革を ■

楠美 憲章さん

日産自動車(株)元副社長 (昭和38年卒)

①大学業界も競争社会だと思う。戦略的に物事を進めていかななくてはならない。しかし、中大は世の中の流れに疎い。どこか地盤沈下している気がする。

②もっと戦略的に経営してほしい。

大西 雅之さん

(株) タクマ元専務 (昭和36年卒)

①中大は落ち目な気がする。箱根駅伝の成績がそれを示しているんじゃないか。孫がいるが、このままだと将来、中大に入れようとは思わないだろう。他大学の方が結束力が強く、魅力的に見える。中大は、このまま法曹界を中心にしたりやり方では生き残れなくなるだろう。

②大学経営は、実社会で経営や経済を学んだ人が担うべきだと思う。

境 捷彦さん

日建リース工業(株)顧問 (昭和39年卒)

①いまの中央大学は長期低落傾向にあると思う。慶応大学に比べて学

校改革が10年は遅れている。それを取り戻すためにも、少子化が進む今の時期に頑張らないと、中大の今後が心配だ。

②中央大学に関わる全ての人が力をあわせて頑張つてほしい。

河嶋 茂雄さん

公益法人研究所 所長 (昭和35年卒)

①少子化で定員割れしている大学が増えているが、「あの大学は行く価値がある」といわれる大学でないと駄目だ。これからの時代は、中央大学の名前に溺れていたら駄目になる。

②スポーツの振興が大事だ。早稲田は卓球の愛ちゃん(福原愛選手)を入れたり、桑田(真澄元プロ野球投手)を入れたりしている。中大にもスポーツ産業育成学部を創部すれば、全体が活性化する。スポーツ選手を養成するのではなく、スポーツ産業の幹部を養成するための学部を中大につくるべきだ。

宮澤 公廣さん

エコア(株)代表取締役 (昭和38年卒)

①中央大学の風采は昔に比べてだい



経済界の第一線で活躍する参会者たち

ぶ変わってきた。多摩キャンパスにはモノレールも通って、イメージアップになっていると思う。問題点としては、総合大学にも関わらず、各学部の凹凸がまだ見られることだ。総合大学だということも、もっと鮮明に分かるようになっていくべきだと思う。

②寄付金はもっと集め方に工夫が必要。何に使うための寄付金なのかということをはっきりさせ、広報

活動を強化し、裾を広げるべきだ。学生は、社会を知る意味で諸活動、諸外交を進んでやってほしい。中大は、他大学に比べて学生とOB・OGの一体感がない。OB・OGとのつながりをより大切にし、中大に関わる人達が一体となって、大学のカラーをつくっていくべきだ。

■「グローバル化」に対応

驚見 條司さん

日本バイリン(株) 元部長
(昭和46年卒)

①多摩にキャンパスが移ってから、まとまりを欠いたように感じていたが、ようやく大学としての連帯感が出てきた。中大の「質実剛健」というイメージは社会から見ても好感が持てる。スポーツでも勉学でも、もっと大学として社会に大きくアピールしていくべきではないか。

②中大には多くの先輩方が築

き上げてきた歴史と伝統がある。これらを大切にしながら、もっと大きくなってほしい。これからの世界経済は、ますますグローバル化の時代を迎える。中大が得意とする法曹や会計士の分野で、国際的なリーダーを輩出してほしい。
大久保 伸夫さん (株)野村総合研究所 部長(昭和62年卒)

①日本の社会は、中大卒業生がいないと、まわらないほどである。財界にも多くの優秀なOBを輩出している。にもかかわらず、中大に対する世間の認知度は低い。在校生がもっと自信を持って、中大をアピールするべきだ。

②これからの時代のキーワードは、やはり「グローバル化」だ。世界はグローバル化し続けている。製造業などの国際競争力のある分野に多くのOBを輩出している中大だからこそ、学生には世界に通用するものを身につけてほしい。そのためにも、先生や学生はもちろん、大学職員もが、世界の大学と交流し、世界を学ぶべきだ。

大森 清司さん キッコーマン(株)顧問(昭和35年卒)

①「昔に比べて中大は元気がない」と言われるが、そう考えていては駄目だ。昔は10人に1人しか大学に行かない時代だったが、今は大學生全入時代。現在の基準・考え方で大学を運営していかねければならない。駅伝や司法試験の合格者など、誇れるところはほとんど伸ばし、さらに大学として生き残れるように、努力しなければならぬ。

②グローバル化に対応できる大学になっていってほしい。会社の取引においても、約半分は外国人がお客様だ。世界を視野に入れ、中央大学をグローバルスタンダードで評価していかなければならない。

学生記者取材班

伊藤知広(経済学部4年) / 上田雄太(文学部4年) / 新部真子(文学部4年) / 吉田百合香(法学部4年) / 石川可南子(法学部2年) / 橋本あずさ(法学部2年)